

レジ袋削減の取組 「減らそうレジ袋3億枚!!」

京都市環境局循環型社会推進部循環企画課



レジ袋削減「京都方式」

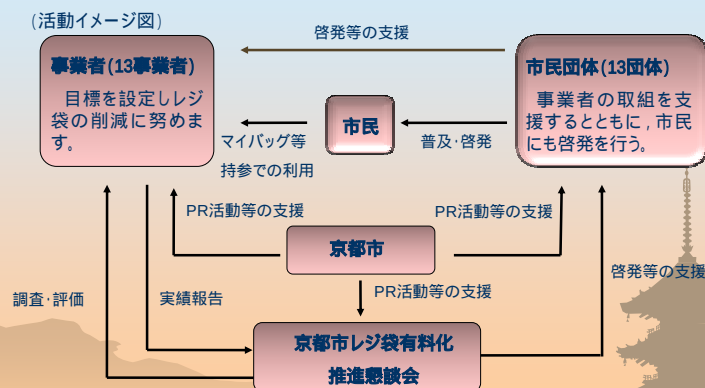
- 行政，事業者，市民団体の連携による削減協定を締結
- 市民団体の参画により，市民・消費者の理解・協力が明確に！ → 事業者の客離れの不安を払拭
- 法制度と自主的取組の相乗効果



第4回協定式の様子



レジ袋削減協定の仕組み



■ 13事業者(67店舗・2商店街)と13市民団体が協定に参画！



取組の分析・評価

京都市では，各事業者からの実績報告を踏まえ，次のとおり協定に基づく取組に関する分析・評価を行っています。

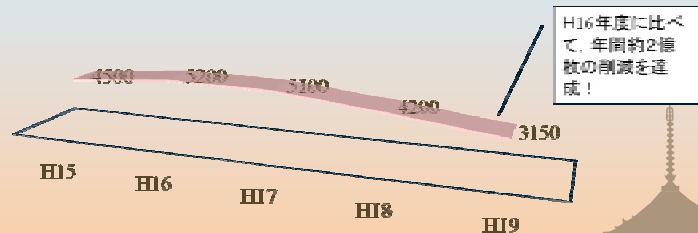
- レジ袋使用量の大幅削減！
 - 有料化を導入した店舗のレジ袋使用量が実施前の年間約3,920万枚から約6分の1の約650万枚まで減少しました。
 - 事業者は レジ袋有料化 マイバッグ持参者への値引き ポイント付与など様々な取組を展開していますが，レジ袋削減に最も効果的な手法が有料化であることが，各事業者からの報告により分かりました。
- レジ袋有料化は顧客数の変化に大きな影響を与えない
- レジ袋有料化に伴う収益金を地域に還元！



取組の成果①

京都市内におけるレジ袋排出量の推移

■レジ袋排出量(単位:トン)



H16年度に比べて、年間約2億枚の削減を達成！

■レジ袋の湿重量が9.8g/枚とすると、平成16年度に家庭から排出されたレジ袋は約5.2億枚。平成19年度は約3.2億枚と推計され、年間約2億枚の排出削減につながっています。

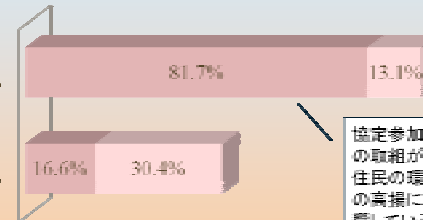


取組の成果②

マイバッグ持参に関する市民アンケート調査結果

■いつも持っていく ■時々持っていく

協定参加店舗周辺住民



協定参加事業者の取組が、周辺住民の環境意識の高揚に大きく影響している。

■京都市で実施した市民アンケート調査では、協定参加店舗周辺住民のマイバッグ持参意識は、市全域の場合に比べて2倍以上高い。また、「環境問題に関心がある」と答えた人の割合も92%を占めるなど、環境意識の底上げにもつながっている。



今後の展開

- 環境意識の地域差や年代差に対して、どのようにきめ細かい取組を展開するのか検討が必要
- スーパーマーケットでの取組を他の流通へどう展開していくのか検討が必要
- レジ袋削減はあくまでも日常行動の見直しのきっかけであり、この機運を他の容器包装廃棄物の減量意欲につなげる新たな仕組みの構築が求められている。